

平成30年度

宮崎市総合教育会議

会 議 録

平成30年度 宮崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成30年8月10日（金）15：30～17：00
- 2 場 所 宮崎市役所本庁舎4階 特別会議室
- 3 出席者 戸敷市長

【教育委員会】

西田教育長、松野代表教育委員、畠山委員、江草委員、柳田委員

【オブザーバー】

時任地域振興部長、高島福祉部長、永易観光商工部長、
福元子ども未来局長

【事務局】

河野教育局長

下郡企画財政部長

（企画総務課）本村課長、河野主幹、田中主査

（学校施設課）大住課長

（学校教育課）押川課長

（教育情報研修センター）荒武所長

（生涯学習課）黒岩課長

（保健給食課）中野課長

（文化財課）富永課長

（企画政策課）野尻参事、井上係長、中村主任主事

- 4 傍聴者 2名

- 5 意見交換

- ・宮崎市における今後の教育の課題について
 - （1）「地域に定着し、地域を担う人材の育成について」
 - （2）「これからの学校づくりについて」

河野主幹	<p>ただいまから、平成30年度宮崎市総合教育会議を始めさせていただきます。はじめに、会議の主宰者でございます戸敷市長からご挨拶をいただきます。お願いいたします。</p>
戸敷市長	<p>本日は、総合教育会議に参加していただき、感謝申し上げます。昨年度の総合教育会議では、教育委員の皆さんに色々なご意見をお伺いしました。第二次宮崎市教育大綱を策定するために、たくさんのご意見をいただいたわけですが、第二次宮崎市教育ビジョンも、その間で策定させていただきました。一般行政と教育行政が一体となって、本市の教育のあるべき姿、また宝である人材の育成をどのように進めていくかという議論をさせていただき、しっかりそれを示すことができたと考えているところであります。</p> <p>また、4月から10年間の本市のまちづくりの基本ということで、第五次の宮崎市総合計画を策定し、スタートしたわけですが、分野横断的にスクラムを組んで、重点的に取り組むこととしている戦略プロジェクトの達成の成否は、まさにひとつづくりにかかっていると考えております。そのことを、私どもはしっかりと宮崎市の基本的なスタンスとしたいと思っています。</p> <p>人口減少社会とよく言われますが、5年前から、宮崎市もその波にのまれている状況です。子どもや働き手となる方々が減少し、一方では、高齢者が増加するという人口構造の変化が進んでいく中で、進学や就職、そういうものを契機にして、生涯を通して本市の誇れる子どもたちをどのように育てていくかということをしっかりと考えなくてはなりません。宮崎にとどまっていただくことを考えることも教育の基本ではないかと思うところでございます。それが、私どもの将来を担ってくれる、また、魅力ある自治体として存続できるかどうかの成否にかかっていると考えております。現実として、しっかりと向き合わないといけない命題であります。</p> <p>子どもたちには、伝統を伝えていくことを積極的にやっていき、魅力を感じられる自治体をつくりたいと考えておりますし、そのような機会を積極的に提供をしながら、子どもたちが未来を考える人材となって欲しいと考えております。また、国内外に情報を発信してくれるようになれば、さらに宮崎の魅力を向上できるのではないかと考えております。</p> <p>私たち大人としては、新たに雇用を生み、ビジネスチャンスを作るためにやっているわけでありまして、雇用の場を私どもが将来的に提供していくことこそが、実効性のある具体的な施策を導いていくことに繋がると考えています。</p> <p>目的の達成に向けては、とことん生活しやすいまちづくりということを基本として実行しまして、力強く発信できるまちづくりに繋がっていきたいと思っています。私がいつも言っていますのは、市民目線、現場主義であります。このことを私ども行政としても重要な柱として位置付けていきたいと考えておりますが、地元との目に見える繋がりが、こういうものもしっかりと、地方創生という取組の中でやっていこうと考えております。10年後20年後のまちづくりを継承していくことができるように、市全体としてやっていきたいと考えておりますので、問題を共有しながら、教育的な立場でどのようにまちづくりに繋がっていくか、皆様方の忌憚ない意見を伺いたいと考えております。どうぞ、今日はよろしくお願い致します。</p>

河野主幹	<p>ありがとうございました。続きまして、西田教育長がご挨拶申し上げます。</p>
西田教育長	<p>平成27年度以降に総合教育会議が毎年開催されまして、今年度も新たな課題を設定して開催に至りましたことは、市長の教育行政に対する深い理解と『みやざきっ子』の育成に対する強い思いの表れであると思っております。教育委員会といたしましても、教育の現場が抱える課題やあるべき姿について市長と意見を交わし、お互いの思いを共有できる機会を設けていただいていることにつきましては、教育行政をより一層推進させる大きな原動力となるものと思っております。</p> <p>また、今年3月ですけれども、市長から第二次宮崎市教育大綱が示されましたが、その目指す方向性については、教育ビジョンの基本的な考え方や目標を柱として策定いただきました。私どもの考えておりますことと同じ方向性を大事にいただいているということで、そのことについても、感謝申し上げます。</p> <p>教育委員会におきましては、松野代表教育委員を始め、3名の教育委員の皆様におかれましても、日頃から献身的に取り組んでいただいておりますし、現在、第二次宮崎市教育ビジョンの基本理念であります、宮崎で育ち学ぶことを通して、郷土に誇りと愛着をもつ、感性豊かな『みやざきっ子』の育成を目指して、教育委員会職員も一丸となって、取組を進めているところであります。</p> <p>ビジョンでは、基本目標として、学校教育の充実、教育環境の充実、地域・家庭・学校が連携した教育の充実の3本を柱としていますが、着実に前進して、子どもたちや市民の皆様が宮崎で教育を受けてよかった、宮崎に住んでよかったというような感想をもてるよう、努力していきたいと考えております。</p> <p>本日は、市長からご助言等を含めた、活発な意見交換ができると思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。</p>
河野主幹	<p>ありがとうございました。それでは、はじめに、本日の日程について説明させていただきます。本日は、お手元の資料、会次第に沿いまして、17時までの1時間半、市長、教育長、教育委員の6名によりまして、意見交換を行う予定にしております。なお、本日は地域振興部長、観光商工部長、福祉部長、子ども未来局長がオブザーバーとして同席しております。それでは、会次第に沿って、進行させていただきます。ここからの進行につきましては、戸敷市長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
戸敷市長	<p>それでは、私の方で進行させていただきます。意見交換ということで、今回は二つ議題がございます。一つは地域に密着し、地域を担う人材の育成ということでございますが、非常に課題も大きいし、克服するのも難しいという状況であります。</p> <p>もう一つは、これからの学校づくりということで、教育委員さんも、それから、教育に携わっている皆様も非常に課題が大きい内容ではないかなと思っております。ただそれは私たちは、必ず克服をして実現し、未来に繋げないといけないという思いがしておりますので、今日は積極的に意見の交換ができればありがたいと考えております。</p> <p>最初に、「地域に定着し、地域を担う人材の育成について」、私から、提案させていただきたいと思っております。人口減少の話は先程も申し上げましたが、本市も2013年から人口減少に入っております。2016年には40万人を超えていた人口も、今から42年後の2060年</p>

には29万人にまで落ち込む、つまり、約11万人減少するという状態になります。

特にその中で落ち込むのが14歳からということでありまして、2017年の14歳以下の子どもの数は5万7千人を超えていましたが、2060年になりますと、3万人ぐらいまで落ち込む想定です。半数近くになるだろうと言われております。そういうことを考えますと、人口減少は、まだまだ激しくなるわけでありまして、子どもたちが地域で暮らしたり、働いたりするということについて、どのような意識をもっているかを私たちは考えなければならないということです。

2017年に、内閣府が全国の16歳から29歳までの男女を対象にした調査によると、16歳から19歳の約半数が、将来は都会で働いていると思うと答えているようですから、宮崎市の人口は極端に落ちるということになります。

そのことを考えますと、15歳から25歳の人が、進学や就職を契機に転出をする。転出超過というのは今でも起こっているわけですが、そのことが、子どもの中で最も克服をしなければならない内容ではないかと思っております。

そのために、平成30年度からスタートしました第五次の宮崎市総合計画において、若年層の転出率を30%以下に抑えることと、合計特殊出生率を2.07に引き上げることを目標にしました。また、若い世代を増加させていくことも必要ではないかと考えています。2060年には29万人にまで人口が減る想定がありますが、それを33万7千人までの減少に留める、つまり、約4万7千人分の減少を食い止める、圧縮するということです。

そのためには、地域に誇りや愛着をもつ『みやぎっ子』の育成が必要になります。そのことと、地域や企業のニーズに適合する人材育成が必要だと考えておりますので、しっかりと政策を掲げ、そのための施策として考えていきたいと思っております。具体的には、中学校の生徒、職員、保護者に対して、昨年から体験型の「ゆめパーク」を実施いたしました。昨年は中学校3年生でしたが、今年は中学校2年生に、キャリア教育の一環として実施しています。地元の企業を知ってもらい、いかに優れた企業があるかということをしかりと現場を見て理解し、体験してもらうことで、子どもたちに夢をもたせていこうという内容でございます。今年も44の企業団体がブースを構え、中学校25校全ての3,000人の中学生に参加いただきました。非常に感謝を申し上げたいと思います。人口減少というのは、我が事として考えていくことが必要ですから、子どもたちにもしっかりと伝え、宮崎市の人口減少について考えてもらえるようにしていきたいと考えております。

また、内閣府の調査では、小学校4年生から中学校3年生の9割が、自分の居住する地域で働きたいということを持っているし、地域が好きだと回答しているようでございます。その思いを、私たちは潰さないようにすることが重要であると考えていますし、やらなければならないことと思っております。価値観の多様化が進む中で、都会暮らしへの憧れもあると思いますが、逆に宮崎の良さを発信するというのも考えていきたいと思っております。都会ではできない宮崎市のライフスタイルは、本市のアドバンテージであるということをしかりと押さえて、子どもたちに積極的に取組を伝えていく必要

	<p>があると考えているところです。</p> <p>もう一つは、その良さを移住をさせるという方向付けにできないかということでやっておりますが、目標値から相当進んだ形で、宮崎市への移住が進んでいます。例えば、青島あたりも久しぶりに若い世代が入ってきておりますが、新婚3年くらいのご夫婦に宮崎市に移住していただき、バックアップをしているという状況もあります。</p> <p>その成果は、宮崎市のライフスタイルを非常にエンjoyされているほか、子育てしやすいという状況に現れておりますので、県外から来られた方々は、とても恩恵を享受しておられると思います。</p> <p>こういった実体験は、子どもたちの心や体に響かせることができるという確信をしておりますので、さらに充実した内容にしていきたいと考えております。</p> <p>地元に着する、あるいは県外から来て移住をして大いに地域を発信する活動をしている。このことによって、さらに定着を促し、地域を担う人材の育成に繋げることが非常に重要だと考えますので、これを一つのテーマとして、皆さん方のご意見を賜りたいと考えております。どうぞよろしく願い申し上げます。ざっくばらんにお話をいただければありがたいと思います。まずは教育長からお願いします。</p>
西田教育長	<p>まず、説明をします前に先程、市長からも言われましたけれども、昨年度から開催されております、市内企業や大学等の協力を得て、地元の魅力を知って将来を考える体験型イベントである「ゆめパーク」に、市内中学3年生が参加させていただいております。今年も7月11日に、シーガイアコンベンションセンターで、3,031人の市内の中学2年生が、市内の企業団体や大学、専門学校などの44のブースを回りまして、地元で進学できる学校や就職できる企業を知り、進路の選択や職業選択に繋げていくことができる機会を設けていただきました。このような機会を設けていただいたことに、大変感謝しております。</p> <p>また、先日9月7日に大宮中学校区におきまして、市長主催による第1回目のふれあいトークが行われましたけれども、市長は、今年度から3年かけて、全ての中学校区を回って、それぞれの教育現場における地域や家庭との連携、課題解決に向けて、地域とともに知恵を出していくとおっしゃっておりまして、私ども教育委員会としまして、大変心強く感じているところであります。</p> <p>それでは、教育委員会から、キャリア教育の現状についてご説明した後、モデル的な取組を事例を交えて説明させていただきます。まず、キャリア教育の現状についてご説明します。</p> <p>お手元の資料の8月10日と書いてある配付資料の5ページの中段をご覧ください。まず(1)の、文部科学省の行った「全国学力・学習状況調査」によりますと、昨年度、「将来の夢や希望をもっていますか」という問いに対しまして、「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた本市の小学6年生の割合は、90.7%と非常に高い状況でした。そして、中学校3年生は76.1%となっております。これらの数字は全国平均よりも高い状況となっております。</p> <p>また、宮崎県が実施した、「宮崎の教育に関する調査」によりますと、平成28年度は、小学校の75%、中学校は全ての学校が、地域人材や産業界等と連携・協働したキャリア教育に取り組んでいると答えております。しかしながら、就職の面から見てみますと、高校卒業者の県内の就職率が約半分程度で、2年前には、全国ワーストワンと</p>

	<p>いう状況がありまして、若年層の半分近くが県外に流出する状況が続いていることは残念なことであります。</p> <p>義務教育段階におきましては、これまで以上に、子どもたちが、郷土に愛着と誇りをもつことができる教育を進めることが必要ではないかと思っております。6ページをご覧ください。(3)の実施事業としまして、平成29年度から、「地域とつながるキャリア教育推進事業」に取り組んでおります。</p> <p>職場体験学習夢ワーク21は、市内中学校全ての2年生が、職業観や勤労観を育むことを目的としまして、3日間、地域の商店、農家、ホテル、病院、福祉施設など地域において、協力していただける事業所での職場体験を行うものであります。昨年度は、3,223人の中学2年生を1,115の事業所に受け入れていただき、今年度も実施しております。</p> <p>また、中心市街地、近郊地域、青島地区の3つの地域にモデル校区を設定しまして、地域とつながるキャリア教育の実践に向けた研究を行っております。モデル校区の学校におきましては、小中学校9年間を通したキャリア教育の全体計画、年間指導の計画を立てまして、地域の特色や人材を生かした具体的な仕事の紹介、企業の方を講師とした出前講座などを行っております。</p> <p>例えば、宮崎西中学校ですけれども、職業人を交えてのパネルディスカッションで、お話を聞く場を設けたりする取組を行いましたし、住吉南小学校では、今年度、地域の人材をリスト化することになっております。また、青島中学校では、地域の人々の良さを継承したり、発展させたりすることの大切さを考える学習を進めております。</p> <p>7ページをご覧ください。子どもの豊かな表現力や主体性、郷土愛を育てる取組としては、「ふるさと文化学習支援事業」を実施しております。今年度は、26名の方にふるさと先生として協力いただいております。小中学校で芸術分野における体験学習型の授業を実施していただくことにしております。</p> <p>本日出席の島山委員にも登録していただいております。昨年度は4校10クラス311人にパワフルな授業をしていただきました。本年度もご協力いただくようになっておりますので、また、我々も期待しているところです。</p> <p>本年度からスタートしております、第二次宮崎市教育ビジョンでの指標として、職場体験実施後のアンケートでは、「地域や社会をよりよくするため何をすべきか考えることがある」と回答する生徒の割合を高めていくこととしておりますが、今後とも子どもたちが本市の魅力を感じるとともに、地域社会に目を向け、自分が地域で何かできることがないかと主体的に考え、行動していくキャリア教育を進めていく必要があると考えております。</p>
戸敷市長	<p>教育委員会でも様々な事業展開をしていただいております。その成果は徐々に現れていると考えております。高校卒業者の就職率は、今でも、下から2番目か3番目というような状況ですが、これがまた高まるよう、地元で愛着をもつということをいかに考えていくかが必要であると思っておりますので、皆様方のご意見を賜りたいと考えております。松野先生から、よろしいですか。</p>

<p>松野代表教育委員</p>	<p>この総合教育会議は平成27年度に始まりまして、今回が6回目になりますが、毎回参加させていただいております。本当にありがとうございます。市長から、人口減少の問題をはじめ、進学や就職における県外への転出問題、そういったものを伺ったわけですが、対応策としまして、本年度からスタートしました第五次宮崎市総合計画において、若年層の転出抑制を図るとともに、合計特殊出生率を2.07に引き上げるといったような目標を掲げられていらっしゃるということで、大変、心強く思っているところです。</p> <p>ただ、なかなか相手のあることですので、この人口減少に歯止めをかけるというのは、出生率を上げるだけでも大変なのに、その他の手立てというのも大変だろうと思っております。その後の計画の中にそういったものを明確に位置付けられていらっしゃるということは、大事なことだと考えております。</p> <p>特に、宮崎市の総人口が現在、40万を若干切っているくらいで、44年後ぐらいには、大体现在の85%ぐらいに減るのではないかと。33万7千人ぐらいになるのではないかとというデータのなものも示させていただいておりますし、長期的な視野で、市政を推進されていらっしゃる、市長の姿に感銘を受けたところでもあります。</p> <p>児童生徒の問題につきましては、キャリア教育の大切さがございました。特に、体験を重ねることで、子どもたちが実感できる。地元企業にこういうところがあるということを知り、さらに体験させる大切さをお伺いしたわけですが、これは大変貴重なことだと思います。俺たちの宮崎にはこういう企業があるんだぞ、こういうところがあるんだぞということ、自信をもって話せる子どもたちを育てていくことが大事で、それは大人にまで繋いでいける。一生を通じてのこれは宝になるのではないかと感じております。</p> <p>また、今後、都会にない地域の豊かさすなわち、宮崎の豊かさ、あるいは都会ではできない生き方を、この宮崎で培って子どもたちに伝えていく。そういう責務を私たち大人は負っているという市長のご意向を私たちは十分に受け止めながら、なお一層、ふるさと宮崎市を誇る、あるいはまた、自信をもって語るができる、そういう郷土づくりのために、ふるさと教育の充実に努めたいと思っているところでございます。</p>
<p>戸敷市長</p>	<p>ありがとうございました。私どもは、誇りをもつ子どもたちを育成できる場所を提供していく必要がありますし、教育と行政が一体化して、将来的に推進していくことできる力に変えて、子どもたちに将来を託すという流れを作っていく必要があります。それを実践されている畠山委員、お願いします。</p>

<p>畠山委員</p>	<p>はい。「ふるさと文化学習支援事業」のふるさと先生を平成15年にスタートいたしまして、15年目のふるさと先生として、派遣していただいています。私は、これは宮崎市だけの取組ではないかと思っていますところなんです。私が、ふるさと先生として学校を回らせていただくと、児童生徒達は、毎日学んでいる学校で、毎日顔を合わせている先生や友達とはまた違って、外部講師が関わることによって、いろいろな表情を見せてくれることがあります。私は、三味線を指導することもですけども、子どもたちには是非、何か一つ置いて帰るとすれば、「見る」こと、「聞く」こと、「感じる」こと。そういうことなんです。それは、おそらく学力につながることはないかと思いますが、ところが、回り回ると、非常に重要なことなのではないかと思えます。そして、必ずペアを組んでもらって、授業をさせていただくのですが、観察する人、体験する人という二人のペアが協力しあって、三味線は難しいと皆さん敬遠されるのですが、それを見事に子どもたちは、2時間でマスターしてくれます。</p> <p>子どもたちには本来もっている能力があり、集中することで高められ、その成果が児童に現れているのではないかと思います。</p> <p>私は、大人の役割として、まずは大人が元気であること。大人が堂々とこの宮崎市を誇りに思っていること。そういう姿を子どもたちに見せていくことが必要ではないかと思っています。</p> <p>逆に、子どもたちから学ばせていただくことも沢山あります。子どもたち同士の支え合う姿に感動することもありますし、先生が本当に寄り添っておられます。学校支援訪問ですとか入学式、卒業式とか、有り難いことに出席させていただきました。是非、地域の核となっている学校に、地域の皆さんもどンドン足を運んでもらって、子どもたちの姿を見て、感じて、感動してもらいたいと思います。授業を通して、感じるがよくあります。</p>
<p>戸敷市長</p>	<p>ありがとうございます。実践をされているので、現場がよくわかっているし、子どものイメージもわかりますよね。</p>
<p>畠山委員</p>	<p>市長が現場主義とおっしゃいましたけど、現場がどうなのかということが、非常に大事なんだと思います。教育はおそらく、答えを出すことはなかなか難しいと思うんです。何年もかかるかもしれない。しかし、失敗したことは経験で、成功につながることもかもしれないのです。ですから今、県外に行ってしまう子どもたちも、安心して戻れるふるさととして、宮崎の良さというものを感じていると思いますので、データも今はまだ短いスパンですから、長いスパンになったときに、相当いい成果が出るのではないかと期待しているところです。</p>
<p>戸敷市長</p>	<p>分かりました。ありがとうございます。</p>
<p>柳田委員</p>	<p>難しいですね。7月の教育委員会の定例会においてもテーマになったのですが、これは、私個人の考えなんですけども、人口減少であるとか、そういう問題については、当然、認識はできているんですけど、一方で、教育ということを考えた時に、文部科学省のキャリア教育のテキストを見ると、そもそも、子どもを育てていくことが目的であって、時期はどうでもいいということではもちろんないのですが、子どもの成長とか発達。例えば、宮崎から世界へ羽ばたくような人材を作っていくというのも大事な側面でもありますし、それを考えた時に、キャリア教育というものをどう捉えていくのかというのは、もともと、学校の中でも考えるべきことなのかなとも思います。</p> <p>私自身が中学生だった頃を考えた時に、キャリア教育なんてことは</p>

	<p>もちろんなかったですし、職場体験なんてなかったですし、進路指導といえば、おまえどこの高校に行くをやみたいな、そんなことで終わっていたような感じでした。体験をして、自分に何が向いているのか、世の中のことを何も知らない中で、高校や大学に進学し、社会人となっていった自分を思うと、いろんな体験を通したうえで、自分の可能性を考えていくということは、すごく大事なことだと思います。</p> <p>行政の立場で人口減少への対応を考えると、すごく難しい部分だと思いますが、教育の部分だけを考えると、はたして宮崎にいればいいのかということが、私の中ではしっかりとこない部分が正直あります。いろんな体験を積んで考えていくことがとても重要であるし、それを積み重ねていくことで、今おっしゃったような将来的なこと、5年後10年後、あるいはその人がリタイアした頃にどういった行動をとるかということにつながるのかなと、ずっと考えていました。</p>
江草委員	<p>ちょうど息子が中学2年生ということで、職場体験をして、ゆめパークにも参加させていただきました。</p> <p>息子に感想を聞いたのですが、職場体験は、残念ながら第3希望だったんだよねと言いながら、3日間通ったんですけど、自転車で30分から40分かかるところを雨の中、通いました。</p> <p>自動車の掃除をするところに行っただけなのですが、それに対して見方が変わって、車に対してすごく興味を示して、車を見る度に、僕はあの車を洗ったんだと話をしてくれて、親としてはとてもいい体験をさせていただいたと思っています。</p> <p>ゆめパークの方は、行ってどんなだったか聞いてみたらですね、3つしか回れなかったということで、せっかくとても素敵なイベントをさせていただいたんですけど、半日しか見れなかったのも、後で見ると、ああいうところもあったんだ、ああいうところもあったんだということで、もう少し長い時間見たかったなあというのが、子どもの反省というか反応でした。スタンプラリーでやっと3つ回れたということだったので、沢山、宮崎の企業に来ていただいていたから、もう少し長くできたら良かったのかなと私自身も思いました。</p> <p>私は今、木花で子どもに関わる仕事をしているのですが、移住されてきた方からは、宮崎は子育てがしやすいという話を聞きます。そういう話を聞くと、やはり子どもたちは宮崎から外に出て、宮崎に帰ってきて、子育てをしたいと思ってくれたらいいなと思います。移住してきた人の話とかを聞いて、宮崎って子育てをしやすいところなんだと、私たちも改めて感じることもなので、そこはもっと子どもたちにも分かってほしいし、将来について考えてほしいと感じています。</p>
戸敷市長	<p>確かに、IT企業の誘致をやって、3年くらいで1,100名ぐらいの方に中心市街地に来てもらっていますが、社長さんたちがよく言われるのは、宮崎市は過ごしやすく、子育てしやすい地域だということです。そういうことに誇りを持ち、この宮崎らしさをよそに発信していくこと。なおかつ、子どもたちにそれをしっかりと認識させること。これは、親の責任でもあり、教育行政でも一般行政でもやっていく必要があると思っています。違うものを見つけるという点では、都会への憧れは当然あるでしょう。でも、憧れでどんどん宮崎から人が流出すると、日本全体が減少している訳ですから、それを地域で留めるということをやっていかないといけないと思います。子どもたちにいかに宮崎に愛着をもたせるか、このことが一番重要なことだと思います。松野先生、そのあたりはいかがでしょう。</p>

松野代表教育委員	<p>今、多くの学校で、地域の方に学校に来ていただいて、いろんな体験談などを語ってもらったり、技術を伝えていただいたりしていますね。そうしますと、日頃全然そういう体験がなくても道で会ったときに、子どもたちが、「あっ、この方はこの前、学校に来て教えてくれた方だ。」となります。そうしますと、子どもたちの人を見る目、大人を見る目が変わってくるような気がします。ひょっとしたら、この人も僕は学校で見ないけど、何かやってるはずだ、何か持ってるはずだとなり、子どもの想像力を逞しくして、この人も何か持ってらっしゃるんじゃないか、何か教えてほしいと思ってくれるようになるのではないかと思います。そこまでいくといいなと思っています。</p>
戸敷市長	<p>熊本の高森町では寺子屋といった形でされていますよね。地域の高齢者が、子どもたちをしっかりとサポートしている。子どもが育って、今度は大学生になって、子どもを夏休みに教えているという話を聞きましたので、真剣にやって、楽しさというか、その中で面白さというものをごちらが提供したら、必ずリピートしてくれるのかなと思ったところです。確かに先生がおっしゃるように、地域の方々の知恵を借りないといけないということですかね。畠山さんもそれを実践されて、子どもたちが変化しているということをおっしゃってましたが。教育長、その辺りはどうでしょうか。</p>
西田教育長	<p>はい。ふるさと先生の特徴ですが、文化芸術面の現状としては、教員数が減って、美術の先生が少なかったりします。</p> <p>そういう現状にあっても、感性を磨くことができるように、普段気付かないようなことをやるということがこの魅力であって、子どもたちが、普段体験できないことがこの宮崎ならできるということを知って、また成長していくことは、非常に大切なことではないかというイメージをもっています。</p> <p>もう一つよろしいでしょうか。資料の1ページにあります、地方創生の取組に関して、企画政策課の職員が、人口減少等を踏まえた説明を行う授業ですが、これはとてもいい取組だと思っています。</p> <p>先日ありましたふれあいトークにおいて、大宮地区があと何十年したら、人口がこれだけ減る可能性があるというグラフを見ると、深刻さがとても伝わってきました。</p> <p>そこで、例えば、教職員の新任式の時に、宮崎市の課題は何かということの説明する時間を作って企画政策課の方に話していただいて、宮崎市の教職員として、問題点はどこにあるのかということが理解できるようにすると、教職員の意識も違うのではないかと思います。そういうことをどんどんやっていくと面白いだろうと思っています。</p>
柳田委員	<p>私の場合は、学校に行って話を聞くと、意外と都会に行くことが怖いという子どももいるのです。宮崎が良くて宮崎に残るならいいんですけど、怖いから行かないというのはどうかと思うところです。私がお話をするのは、どちらかというと自己評価の低い、自信のない子どもたちが多いいんですけど、そういう子どもたちは、自信がもてるような体験が少ないんです。</p> <p>学校の中というのは、どうしても勉強とかスポーツとかで評価されるということもありますが、体験の少ない子どもたちにとって、社会との接触があって、そこで新たな自分の力を知る機会ができるのであれば、すごく大事なことだと思います。しかも、それが学校教育の中でできるということは大事ですよ。自分達で、いろんなことを取捨選択していけるのが大事なかなと思います。</p>

戸敷市長	<p>大宮中学校区のふれあいトークでも話をしましたが、日機装といった特徴的な企業が本市に来ましたが、30名の従業員募集に、170名の応募があったということです。その内3割は県外からの応募でした。宮崎にそういう会社ができると、県外からの呼び込みができるのです。行政がしっかりとした企業を育成をしたり誘致をしたりして、都会にはないものを宮崎で発信することが必要だと思っています。企業の東京の本社に行ったら、うちの子どもも宮崎に行きましたという話になりました。だから、そういうこともあるのかと思って、ちょっと自信をもちました。行政として、しっかりとした雇用の場を提供することが必要だと思っています。都会に魅力を感じて行ったけど、挫折をしたから帰るんじゃないでなくて、都会に行って、技術をもって帰ってこいと言いたいです。おそらく、都会に行くなと言っても、たぶん行くと思います。逆に、私どもが、「よし行ってこい、しっかり勉強してこいよ、戻ってきたときに良い働く場を提供するから。」というような動きが、私どもの仕事なのではないかとも思います。</p> <p>そういうことも考えて、先程、江草さんも言われたように、親として何をしてあげるか、親がやっぱり子どもと同じ目線にいるというのが、子どもにも影響力をもつのだと思います。子どもは親の姿を見ています。親としてのスタンスをしっかりとさせるべきではないかなとも思っています。</p> <p>「ゆめパーク」については、時間が足りなかったとだけだったということで、子どもがその場面というのをものすごく大事にしてくれたんだと思います。いろんな企業を見られるように、弁当を持って、昼からも回れるようにしてもいいのかなと思ったところです。そういったところも考えていきます。難しいですが、地域、家庭、学校それと行政それぞれが、つながっていければと思います。そういう思いですが、教育長はどうですか。</p>
西田教育長	<p>最近感じることですが、ALTと話した時に、期間が終わっても帰りたくないというALTがいました。ALTの任期は2年ないし5年と決まっているんですね。しかし、5年も経つと、宮崎県人以上に宮崎県人になっていると言ってもおかしくない、素晴らしいメンバーになっています。</p> <p>ALTは、5年経ったら帰ってしまいますが、その人達をうまく生かす方法はないものだろうかと思えます。例えば、英検のスーパーバイザーなどの形で残ってもらうなど、我々から見ても素晴らしい人材は残していてもいいのではないかと思います。</p> <p>どんどん外国人が入ってくるというのはどうだろうというのは、ここで議論することではないのですが、外から入ってきた良い人材をどう残して行って、宮崎を魅力ある市にしていくかということ、今後は考えていかないといけないと感じたところでした。</p>
戸敷市長	<p>ありがとうございました。この件については、時間がなかったのでこれくらいにしたいと思いますが、先程言ったように、親に、是非とも宮崎の良さを感じて、意識としてもらいたい。それから、子どもたちもそういう意識になってほしいと思っていますので、どのように、そうなるよう実践していくか、考えていただければと思います。</p> <p>一応このテーマは終わりにしまして、次は、西田教育長から、「これからの学校づくり」についてテーマが出ておりますので、それについて説明をしていただければと思います。</p>

西田教育長

市長も出られた大宮中学校のふれあいトークですけれども、かなり地域とうまくいっているのではないかと感じました。

ボランティア活動など地域と学校が、積極的に協力し合っているという話を伺いましたが、新しい時代の教育や、地方創生の実現に向けた学校と地域との連携のあり方については、やはり地域の方々が教育活動に参画して、学校と地域が共通の目標をもつということが一番大切ではないかと改めて感じたところでした。

その中で、本市の小中学校では、学校の要望に応じて、学校支援ボランティアが授業で活動してくださっています。

例えば、小学校では、家庭科におけるミシンかけや習字の指導補助といった学習支援を始めとして、また読み聞かせ、登下校指導など、中学校では、教科指導の補助、体験学習支援、部活動支援などに協力をいただいております。

このボランティア活動は、地域の方々にとって、豊富な知識や多様な体験を生かすという部分でいうと、ボランティアをされる人にとっても非常にいいことではないかと思えます。

しかし、学校では、いじめや不登校、インターネット等を介した相談、安全の確保などの問題が増加しています。このようなことで、様々な社会環境の変化に一層柔軟に対応することが求められておりますことから、その点についても、家庭や地域との連携を図っていくと同時に、学校の組織としても、これまでの取組に加えて、さらに踏み込んだものに変えていく必要があると思っております。

配付資料2の、これからの学校づくりについて、をご覧ください。まず、地域・家庭・学校の連携に関する取組として、「地域と学校の連携による教育活動支援事業」を行っています。学習支援ボランティアと学校をつなぐ役割を担っていただいている学校支援コーディネーターは、今年度5つの小中学校に配置いたしまして、学校と地域のニーズをマッチングさせる役割をいただいております。

2ページをご覧ください。また、毎年、学校・家庭・地域の意見交換の場を設けまして、教育委員の皆様とともに、学校だけでなく、地域全体で子どもを育てるために、必要な方策や支援について保護者や教職員、地域の方々、そして学校支援コーディネーターとの意見交換を行っています。参考1ですけれども、第二次宮崎市教育ビジョンの目標として、学校支援ボランティアの人数の確保をあげておりますが、ここ数年は約一万人で推移しておりますけれども、ボランティアの担い手となる方々の高齢化が進んでいることで、協力いただける方の確保が、段々苦しくなっている状況です。また、参考資料2ですけれども、これは、教育ビジョンを作成する際にとったアンケートなのですが、対象は小中学校教職員のうち、1,128名なんですけれども、地域の教材や人材、学習環境を活用することに日頃から心がけていますかと聞いたところ、この4割が心がけていない、もしくは、どちらかというところ心がけていないという結果が出ておりまして、ここについて、先程も言いましたように、教職員の意識改革というものも必要だと考えますが、一方で、教職員の多忙化ということもありますので、地域と学校をつなぐコーディネーター的な存在が、必要となってきたのではないかと考えております。

3ページをご覧ください。これは、平成28年1月に、次世代の学校ということで、当時の文部科学省の馳大臣が出した、馳プランと言われるものになります。

	<p>資料の右側になりますけれども、地域からの学校改革、地方創生の観点からは、地域と学校の協議の場であるいわゆるコミュニティ・スクールを設けて、それを踏まえて、図の右下にあります、地域学校協働本部において、地域学校協働活動として、地域と学校が連携・協働した取組を進めることが求められておりますし、必要ではないかと思っております。</p> <p>特に、社会教育法の改正によりまして、地域学校協働活動推進員と表記されてありますが、地域と学校をつなぐ役割、いわゆるコーディネーターとして位置付けられております。</p> <p>本市においても、このような体制がとれないかと思っております。図の真ん中になる部分は、学校そのものですが、組織改革が今、大きな課題になっておりまして、学校が抱える問題が非常に多様化、複雑化しております。そういう中で、専門性をもった人材をどう生かしていくか、チームとして整えるべき体制のことが書いてあります。</p> <p>下に、ソーシャルワーカーという表記がありますが、最近では、外部指導員というような表現もありますけれども、教員以外の人材を増やすことによって、教員が本来の業務である子どもの指導に専念できるようにする狙いがあります。これは理想なんですけれども、そういうようなところもありますので、その観点をしっかり大切にしていきたいと思えます。</p> <p>今後、学校が地域や家庭とさらに連携して、同じ目標をもつ、そういう場面設定をして、一緒にやれることを一緒にやっていく、一緒にやることによって教職員の意識も改革していく。</p> <p>体制を強化しながら、それがそのまま、宮崎の将来を担う、より良き人材づくりにつながるような体制としていくことが、今後我々としてやっていくべきことではないかと考えております。</p>
戸敷市長	<p>ありがとうございました。第五次宮崎市総合計画の中にも、良好な地域社会が形成されている都市というものを考えていくこととしていますが、しっかりと学校や地域が連携して、地方創生というのを実現しないといけないと考えております。</p> <p>市全体がそういった教育をするという指針をもつべきだと思っております。教育大綱にもそれをしっかりと載せております。</p> <p>私は、地域におけるお節介役が必要だと思っていて、敬老会などでは、皆さんに、お節介おばさん、お節介おじさんになってくださいという話をします。随時、サポーターのなり手を養成しながらやっているのですが、助け役になっていただきたい方が1,200名くらいいらっしゃると思いますが、いいよ加勢するよと言ってくださる方は、現実には、5百数十名しかおられない。助け役になっていただける方を確保し、地域の子育て支援などをバックアップできる体制を、行政が作っていくことも必要ではないかと考えております。</p> <p>見守り活動なども、先程、都会は怖いというお話もありましたが、宮崎はそんなことはないと思えますので、しっかりと地域の方々と寄り添いながら、子どもたちを育成し、子どもたちが安心して生活できるような社会ができると思えます。声をかけると、うざいと言う子どももおりますけど、毎日顔が見える状況になると、それは逆に信頼関係につながっていくことになると思えます。そして、子育てしやすい状況につながり、学校も地域の方々からバックアップいただけるようになっていくと思えます。学校に出向いて、親や地域の高齢者の方々が、地域における先生となって、もっと学校に出向いて、学校をバックア</p>

	<p>ップしていただけるようにできると思います。</p> <p>私は、知恵と技をもった方が社会にはたくさん存在していると思っています。今こそ、知恵と技を、我々は生かすべきではないかと思っています。行政としても、幅広く組織の体制づくりを進め、教育に何を求めるか、何が与えられるかを見定めながら、対応を考えて行く必要があると思っています。</p> <p>それでは、皆様からそれぞれ意見をいただきたいと思っています。</p>
柳田委員	<p>学校にはスクールアシスタントという方がいらっしゃって、地域のことをとてもよくご存じで、ソーシャルワーカーのように専門的な知識はもっていらっしゃらないけれども、さまざまな知識ももっていらっしゃるスクールアシスタントと学校の先生が連携していくと、一層子どもたちに対して、目が届く、手が届くというか、いろんな人が学校に関わっていくということは大事なことになるかなと思います。それを組織化していくこと、あまり組織、組織と窮屈にしても、今度は、なり手がなくなってしまいますから、そのようなことも考えて、組織体制をつくっていくことが大事だと感じています。</p>
戸敷市長	<p>地域の方々の力というのは、想像を超えていますよね。</p> <p>私の子どもの育て方なんですけど、親である自分から子どもに言うのと反発します。しかし、仲間の親から、私の友達から、私の子どもに注意をすると言うことを聞く。親には反発をするのが当たり前になっています。しゃべりもしない。返答もしない。でも、仲間の親から言われると言うことを聞くのです。これは不思議なものです。</p> <p>ですから、第三者的な立場で、責任はもたないけど、しっかりと声をかけてくれることのできる人材を活用すべきですし、周りにたくさんいるのですが、あまり活用できていないように思います。そういう人達を大事にしていけば、子どもたちに影響力を与えられると感じますが、どうでしょうか。</p>
江草委員	<p>本当に、地域の方の協力がないと学校の行事など成り立たないものもあります。小学5年生になると、田植えを体験することがあって、稲を植える際に、学校の先生方はどうやったらいいかわからない方も多くて、水の張り方一つとっても、学校支援ボランティアの方々に助けをいただいて、一つ一つ丁寧に教えていただいているということを実感しました。私自身、学校支援ボランティアなんですけど、子どもたちがミシンを使うときに、お手伝いに入ったことがあるんですけど、やっぱりどうしても人手が足りなかつたりして、子どもが40人ぐらいいるのに、2人しかいないとなると、手が回らなかつたりして、とても大事なことだなあと感じていました。地域の方々は、挨拶運動とかで、毎日、危険な交差点に立っていただいたり、見守り隊の防犯パトロールとかで、夕方子どもたちの帰る時間帯に防犯パトロールに回っていただいているのは、本当に、子どもたちを見守ってくれているんだなあと有り難く感じています。</p>
戸敷市長	<p>以前から、地域で子どもを育てるといのは、日本社会にはあったはずですよ。それが、薄れてきているというのが、今の現在の状況かなと思います。これを、再興できないかと思っているのですが。</p>
松野代表教育委員	<p>私は、「会」は「愛」だと思うのです。人と会って顔を合わせるものが愛ではないかと。会って顔を合わせなければ、何も生まれてこない。顔をとにかく合わせるだけで、あのおじさんが来たとか怖いとか、何かちょっと聞いてみようとか、そういう関係ができてくると思うんです。人間というのは、顔と顔を合わせないとやはりだめだと思</p>

	<p>っています。メールなどに頼り切りでは、やはり限界があると思います。それを時にはとっぱらって、今日はメールを使わずに会いに行ってお話したいことも、しかけていってもいいのではないかと思います。</p> <p>もうひとつよろしいでしょうか。先程市長から、行政のバックアップが必要とお話がありましたが、例えば、ファミリーサポートについて、助け役になって欲しい人は、1,200人ほどいらっしゃる。でも、協力していいですよという方は500人ほどしかいない。そうすると、あと残りをどうするのか。</p> <p>これについては、行政の仕組みでどこかでそれを調整できる職員の方を配置していただくことによって少しずつ改善されていくと思います。</p> <p>学校も同じですよ。学校支援ボランティアとして協力いただいている方は、今約一万人です。ところが、その方々は高齢化し、だんだんと減っていくということも考えられます。</p> <p>また、学校の先生達が、地域の方の力を借りようとしていますか。4割はしていないというアンケート結果がありました。これはですね、本当はしたい、利用させてもらいたいと思っているはずなのです。ところが、どうやっていいかわからない。ですから、今後は、学校で校長先生が中心となって、コーディネーターが配置されているいにかかわらず、学校でもフルに活用していただくようにする。そうすれば、先生達も、手軽にできるのではないかという実感が湧くようになると思います。そういう具体的なレベルでやはり、今後さらに力を入れていく部分もあるのではないかと考えております。</p>
<p>畠山委員</p>	<p>学校支援ボランティアの数のことや高齢化についても、やはり地域の皆さんから、やりたい、と言っていただくのが一番理想的だと思うのですが、学校支援訪問で内海小学校に行ったときに、見守り活動をされている八十幾つの会長さんが、授業をするために学校に呼ばれてきて、ソーシャルスキルの中の挨拶をするという内容だったのですが、どんな授業をされるのかなと思っていたら、朝の子どもたちの様子、挨拶の仕方をビデオで撮っておられて、それを見せながら、授業をされました。子どもたちは、毎朝のことだから、目を見て挨拶をしない子もいれば、声が小さい子もいまして、そのような状況を見ながらの授業でございました。</p> <p>高齢者の方の授業ですから、相当長くしゃべって、大変なことになるのかなと心配していたら、その方は「私は、皆のために見守りをしてるんじゃないよ。見守りすることで、皆から元気をもらっている。これが本当に生き甲斐なんです。」とおっしゃって、その時子どもたちは、「僕たち私達は、地域の役に立っているのだ。」というような、そんな表情をしてくれました。</p> <p>私は芸術のふるさと先生をさせていただいていますが、地域の中にも、地域のふるさと先生が多くいらっしゃると思っています。</p> <p>先程ありました、「地域とつながるキャリア教育推進事業」の中で、学校教育課の方が作っていただいた資料に、郊外地域、中心市街地、青島地域と分けて事業を展開されているとありました。</p> <p>宮崎市といっても、地域の中でいろんな色合いがあります。特色ももちろんあります。ですから、私はこれが宮崎市にとって必要な仕分けの仕方かなと思いました。そして、私はもう、とうとうお節介おばさんになりつつあるんですが、お節介おじさん、おばさんこそが、宮</p>

	<p>崎の宝だと思っています。これを広めて活躍して、子どもたちに役に立つことで生き甲斐づくりにつなげるということもいいのかなと思ったところでした。</p>
戸敷市長	<p>大事なことなんですよ。今、言われたように、高齢者の方も子どもから元気ももらっている。なぜ出て行くのかと言いますと、子どものことを考えながら、子どもに寄り添う時間をつくるというのが、ものすごく自分達にプラスになっているというのがあるんですね。</p> <p>私も今は毎朝ラジオ体操に行っていますが、子どもたちを高齢者がとり囲んでいる。子どもと寄り添う時間を作りたいがために行っている。高齢者の方からは、ラジオ体操が生き甲斐で、これが終わったらさみしなるねえという声を聞くんです。だから、積極的に子どもより早く6時半前には来ていらっしゃるという状況がありますね。</p> <p>その地域では、子どもたちも、学校に通うときには、簡単に挨拶ができる、子どもも気軽に返事をしてくれるという雰囲気があるんですね。これが、やっぱり大事なかな。</p> <p>安心して子どもを育てていけるようにするというのは、またサポーターも増えていくということですね。お節介お婆さん、おじさんが増えていくという状態が、子どもたちにもプラスになっているという状況ですね。そのあたりを利用しないといけませんね。</p>
西田教育長	<p>今日のキーワードはお節介役ということですね。お節介役というのはつなぎ屋と言いますか、子どもと大人をつなぐし、地域と学校をつなぐし、それこそ、パワフルなおじさんお婆さんはそういうことを勝手にできるんですけど、我々はそこに自信をつけてあげられるようにする、行政としての仕事はそこにどう仕掛けるかということで、ここがポイントなんだと思います。</p> <p>学校で言いますと、コミュニティ・スクールとかになるのだと思いますが、地域の方にも、我々が上手く仕組みを作っていくことが必要になります。そうすると、教育委員会だけで考えたってどうにもならなくなるので、市長部局と、どういう仕組みを作ったら人が育つのか。まずはそのお節介役を作る。そこをうまくやっていかなくてはならないというのは、先ほど、皆さんの話を聞きながら思ったところでした。</p>
戸敷市長	<p>もう一つ大事なことは、学校は一生懸命に運営の仕事をして、子どもを育てています。ところが、親の中には、自分の意にそぐわない人達が活躍するのをよく思わない人もいます。</p> <p>親の再教育が必要だとも思っています。ボランティアをしている地域の人を見ながら、親は何を考えてるのか。先程のラジオ体操の話ですが。親はほとんど来ません。子どもと地域の高齢者だけです。何人かはみえますけれど。親である自分達が子どもを育てずに、地域や学校に任せっきりなところがあります。</p> <p>これはちょっと考えていけないと思っています。学校のあり方というのは、その辺りも考えていくといいと思うんですが。</p>

<p>松野代表教育委員</p>	<p>すみません。少し外れるかもしれませんが、私は、横断的な取組ということが大好きなんです、実は、昨日、男女共同参画の協議会がありました。それに出られた部長さんも今日はいらっしゃいます。その会議の中でですね、ドメステックバイオレンスですね。女性に暴力をふるう男性のケースがほとんどでしょうが、これの防止の啓発で、今、中学生にパンフレットを配布していただいているんです。</p> <p>教育委員会もちろんその組織の中に入っているわけですが、ドメステックバイオレンスというのは、誰がみても許せないことなのですが、これを学校教育の中だけでなく、市長部局とともに、部局横断的に取り組まれているわけです。</p> <p>市内の中学1年生の生徒が全て学んでいる訳ですから、こういったものはすぐに効果は出ないだろうけども、いつかはそれが身を結んでいくんだと思います。そういうのを見ますと、本当にああいいなと参加しながら思ったところでした。</p>
<p>戸敷市長</p>	<p>大事なことですよね。男女共同参画の会議では、常に言われています。LGBTの話も今出ていますし、そういったことについてもしっかりしないといけないのですが、思いやりをもつことができていないから、子どもを預けていながら、批判ばかりする親も多いのです。</p> <p>私はPTAを経験しまして、そういう親に、私達はどうやって向き合うかということを考えた時期もありました。</p> <p>行動を起こすことで、変わってきたというのものもあるわけです。学校教育の中で先生達の悩みも、ものすごくあります。</p> <p>教育の悩みもあるけど、圧力による悩みはやっぱり極力避けていかなないとはいけません。校長先生が言い出しっぺとなって、学校の運営をしっかりやるには、地域も入れないとだめなんです。</p> <p>学校運営協議会と地域学校協働本部などのアピールする必要があるんじゃないかと思います。意外と知られていないですね。</p> <p>このような仕組みが、住民と保護者、学校、行政という流れを作って形成されれば、上手く横断的な形になっていくのではないかと思います。人を尊重せず、自己主張だけをするということになると、子どもが将来自己主張ばかりするようになってしまうということになるわけです。このあたりは、柳田先生どうですか。</p>
<p>柳田委員</p>	<p>人の批判ばかりをするというのは、どういう組織でも必ずいらっしゃいます。そういう人達というのは、ある意味自己評価が低いのではないかと思います。つけ込まれない為に、やられる前にやるみたいな感じが強いんです。現実にはなかなか難しいけれど、理想を言えば、そういう人も含めて仲間に入れられるような関わりが求められるのでしょね。実際に感情的に考えると、なかなか難しいような方ですし、対立候補を作っちゃうと上手くいかないのは、確かですね。</p> <p>そういう意味で、そういう人ともつながるような地域にするだけか、そういう人がうまいこと見つければ、そういうことをきっかけにして、取り込んでいくこともできるだろうし、学校いうのはすごい所だなど思うのは、いろんなことを、結果的にやらないといけない所だということです。</p> <p>子どもの周りにいろんな大人がうごめいているということですから、学校はそこを含んで見ていかなければならない場所で、特異な場所だと思います。そこでいろんな人を取り込んでいくと、開かれた学校として、将来的につながっていくことになると思います。</p>

<p>畠山委員</p>	<p>多種多様で、そして、まさかのことが起きる時代になってきていますよね。気候もそうですし、人間関係、事件、事故もです。専門的な知識のある方にも関わっていただく必要があると思います。無知が壁をつくるというのもありますから、そこで、しっかりと話ができるように、専門家であるスクールロイヤーがいたり、カウンセラーがいたり、スクールソーシャルワーカーがいたり、そういう経験豊富で、地域のことも分かる方がいてくださることが、開かれた学校になると思います。</p> <p>そこにはもちろん、地域の見守りとか、信頼関係が必要になってくるとは思いますけれど。必要な教育予算も取っていただくということで、是非ともよろしく願いいたします。</p>
<p>柳田委員</p>	<p>今、思い出したんですけど、オープンにということ話をしましたが、役を作っていくということとを並行して考えていかないとけないと思います。</p> <p>学校の先生ってすごく真面目だから、言われたことを全部受け止めるのではないかと思います。やっていいことと悪いことが世の中にはあって、そういうところというのは、私達を含め、学校の先生達の弱い部分なんです。</p> <p>どこまで許容したらいいのか、どこから先を許すべきではないのかということ両方考える意味では、そういう部分が判断できる専門家はとても大事だと思います。</p>
<p>戸敷市長</p>	<p>例えば、ある親が警察に呼ばれて、「お宅の子どもが夜徘徊してますよ。」と言われて、「うちの子はそんなことはない。寝てますよ。」と言ったら、外で待っていたということを知ったことがあります。</p> <p>自分の子どもに対する無知というか、認識が足りない、親の社会性が足りないというところで、マイナス面になっているというのは、結構あるんです。先生達は、本当に真面目に教育のことを考えられて、真剣にやっていますが、親には言えないこともあって、結果的にそれは子どもにも影響する、社会にも影響するというような流れになってしまう。</p> <p>そういうことがありますから、子どもはもう一度考え直して、感性豊かな『みやざきっ子』の育成をイメージしてやっていくべきではないかと思います。</p>
<p>西田教育長</p>	<p>学校と地域との連携ということですが、学校と保護者との間では色々なトラブルがあり、学校は非常に苦しい状況があります。</p> <p>保護者も苦しいということもあるので、仕方がないことなんですけど、いつまでも距離があって、例えば、6時間ぐらい保護者と話し合いをして、教員が自分の授業ができないというような状況もあったりします。</p> <p>そのようなこともあるのですが、そこに専門家が入ってくるのは逆に良くないのではないかという感覚といいますか、そういう人が入ってくれたらたぶん、その教員は授業に向かって仕事ができるんですけど、これがなかなか難しい状況もあります。</p> <p>ただし、そういった面でいうと、教員をバックアップするスタッフに限界があるにせよ、学校内で、教員以外の人が入ってくることによって、学校の文化も変わるし、先生達が自信をもてるようになる方向に、今後の教育、学校のあり方というのは、変わってくるんだろうなと思いますし、そのように考えていかななくてはならないと考えているところであります。</p>

松野代表教育委員	他の市町村の教育委員と話すことがあるのですが、宮崎市は正規以外の職員も配置していただいております、このことを話しますと、本当に羨ましがられます。改めてお礼を申し上げたい。
戸敷市長	<p>ほっとしました。本当にですね。教育が人を作っていくわけで、教育から人ができ、未来ができるわけですから。私たちが手を抜いたら、その次はまだ悪くなるんですね。手を抜くことによって、どんどん悪くなっていく。良くはならないと思います。だから環境と一緒に、自分たちがしっかりしないと、二酸化炭素がどんどん出て、環境は悪くなる一方ですね。この前の台風のように、ぐるっと屋久島を回って北上するような感じです。だから教育にも手を抜いたら絶対にマイナスとなって、私たちにしっぺ返しが来るということを常に私は思っています。</p> <p>予算も付けますけど、やっぱり20年30年先を見て、人づくりというのはどうあったらいいのかというのを、先ほど教育長も言われたように、親も共有して、しっかりしないといけないと思います。不登校の話もこの前出ましたよね。不登校は親が許すと、子どもが不幸になる。学校に行かず教育を受けていない子どもは将来的にはマイナスになるわけですから。そんなこともしっかりと共有する部分というのを、6時間お話をされても、やはりそこらへんはしっかりと認識をもたせる、ああそうだと思うことを考えていかないとですね。将来的にはものすごく、人材の教育不足によって、社会の財産がどんどん目減りしていくような気がしますよね。そのところをどうしても考えていきたいなと思っています。</p> <p>学校教育の中での学校づくりのあり方は、やっぱり一般行政にもどんどんフィードバックしていただいて、悩まずに社会的に教育をしていくことが必要だと思うんですけどね。</p> <p>スクールカウンセラーとかアシスタントとか、バックアップする努力はしていこうと思います。</p> <p>また今は、ALTも養成しながら、どんどん国外に出て行く人材をつくっていかないとイケません。宮崎弁だけではダメです。私は、痛感しています。そのことを考えていくと、やっぱり今何をすべきかということを経験すべきじゃないかなと思います。勝手なことを言いましたけど、江草委員から今日の感想をお願いします。</p>
江草委員	子どもたちのために、いろいろといただいているなああと改めて感じます。今、特に自分の仕事も子どもと関わる仕事をしているんですけども、本当に地域の方達に見守られてるなああとつくづく感じました。これから、20、30年後に飛び立つ姿を見られればと思っています。ありがとうございます。
松野代表教育委員	この、雰囲気、まさに宮崎の良さ。すばらしい会に参加させていただきました。ありがとうございました。
柳田委員	親は、学校がしていることを、当たり前と思っているんですね、恩を着せる必要はないんですけど、きちんと理解しておくべきだったかなと反省しております。
畠山委員	<p>このような機会を作っていただき、本当にありがたく思っております。</p> <p>私は、宮崎に生まれて、宮崎に住んで、そして宮崎で仕事をさせていただいて、本当に幸せだなあと感じて活動させていただいております。これからも、よろしく申し上げます。</p>
西田教育長	今後とも、皆さんよろしくお願ひいたします。

戸敷市長	<p>最初に申し上げましたが、宮崎市の第五次総合計画10年先を見越した中で、新たな5つのプロジェクトを設けています。子ども・子育て推進プロジェクト、これを新たに項目に入れました。しっかりと子ども・子育てをすることによって、宮崎の次代を担う人材というのが、磨かれうるような状況になればと考えております。</p> <p>常に思っているんですが、まちづくりはひとづくりだと。ひとができなかったらまちはできない。ハードだけでは絶対にまちはできないと思っています。</p> <p>このことを共有する人材が私たちかなと思っています。私たちがしっかりしないと、次の人材がうまくいかないと思っています。是非とも、皆様方の協力をいただきたいと思います。</p> <p>大事な教育でありますから、今後も、重点的に取り組んでまいります。私も頑張っておりますので、お願いを申し上げて、本日の会議を終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>
河野主幹	<p>ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、平成30年度宮崎市総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。</p>